

環 境 水 道 委 員 会 記 錄 (N o. 1 0)

1 日 時 令和 7 年 8 月 6 日 (水)
午前 9 時 58 分 開会
午前 11 時 05 分 閉会

2 場 所 第 5 委員会室

3 出席委員 (9人)

委 員 長	日 野 雄 二	副 委 員 長	荒 川 徹
委 員	戸 町 武 弘	委 員	田 中 元
委 員	たかの 久仁子	委 員	木 畑 広 宣
委 員	泉 日出夫	委 員	奥 村 直 樹
委 員	村 上 さとこ		

4 欠席委員 (0人)

5 出席説明員

上下水道局長	廣 中 忠 孝	総務経営部長	中 島 尚
総務課長	浜 崎 善 則	経営企画課長	丸 谷 紀 之
営業課長	矢 野 恵 美	水 道 部 長	一 田 大 作
浄水担当部長	高 山 一 生	計 画 課 長	長 松 軒 清
配水管理課長	石 井 秀 雄	浄 水 課 長	荒 牧 順 一
下水道部長	神 野 右 文	下水道施設担当部長	進 友 寛
下水道計画課長	松 本 実	下水道保全課長	松 本 浩 一
施 設 課 長	堤 修 士		外 関係職員

6 事務局職員

委 員 係 長 伊 藤 大 志 書 記 山 下 絵 美 理

7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	ライフルайнの強化と持続可能な上下水道事業の推進について	上下水道局から別添資料のとおり説明を受けた。
2	第三セクターの経営情報について（株式会社北九州ウォーターサービス）	上下水道局から別添資料のとおり報告を受けた。
3	下水道分野における芦屋町との広域連携について	

8 会議の経過

○委員長（日野雄二君）開会します。

本日は、所管事務の調査を行った後、上下水道局から2件報告を受けます。初めに、所管事務の調査を行います。

ライフルайнの強化と持続可能な上下水道事業の推進についてを議題とします。

本日は、北九州市上下水道事業次期中期経営計画の策定について、報告を兼ね、当局の説明を受けます。経営企画課長。

○経営企画課長 北九州市上下水道事業次期中期経営計画の策定について御説明いたします。

お手元のタブレットの資料を御覧ください。

まず、1、概要についてでございます。上下水道局は、従前から、5年間の事業計画や財政計画で構成される中期経営計画を策定し、計画的に事業を実施しておりますが、現在の北九州市上下水道事業中期経営計画2025の計画期間が令和7年度で終了するため、令和8年度から令和12年度を計画期間とする次期中期経営計画の策定に向け、令和7年3月に続き、昨日、北九州市上下水道事業審議会を開催いたしました。

続きまして、2、説明概要についてでございます。今回の審議会では、上下水道局が所管する水道事業、水道用水供給事業、工業用水道事業、下水道事業を対象として、次期中期経営計画の策定に当たっての基本的な考え方と事業計画、具体的な主な取組を説明いたしました。

まず、基本的な考え方として、基本計画や、能登半島地震を契機とした施設の強じん化の要請を踏まえ、北九州市上下水道事業基本計画2030の策定時に掲げた強じん化の効果が得られるよう、事業を着実に推進することを説明いたしました。この事業計画では、基本計画の内容を実現するための具体的な取組をお示ししております。

2ページを御覧ください。

水道事業における主な取組として、一番上、浄水施設の長寿命化2か所、4番目になりますが配水管更新180キロメートル、中段になります、バックアップ機能の強化として配水本管のル

一帯化など、また、次にその下、下水道事業における主な取組として、2番目の下水道管きよの巡視及び点検調査900キロメートル、その下、腐食リスクの高い下水道管きよの改築・更新25キロメートル、その下、施設規模の最適化として、皇后崎浄化センターの再構築や、若松ポンプ場の整備などを実施する計画であることを説明いたしました。

3ページを御覧ください。

このほか、上から2番目、工業用水道管の更新2キロメートル、ピンクの表ですが、一番上の上下水道事業の発展的広域化に向けた取組として、水道広域セミナーの開催、4番目のお客様満足度向上に向けた取組として、料金支払い方法の多様化の検討などを実施する計画であることを説明いたしました。これら主な取組を実施することにより、各施設の耐震化率が令和5年度末と比較してどの程度改善されるかを下の表にお示ししております。

4ページを御覧ください。

審議会において、委員から御意見をいただきましたが、北九州市の人口が減少する中、人口密度等の要素を踏まえ、将来にわたって維持する施設や、当面の間維持する施設など、地区別の施設の在り方を整理し、維持管理コストを削減する必要があるのではないか。施設効率化の観点から、送水管を更新するのではなく、給水車で配水池へ水道水を運搬し、各家庭に供給する運搬給水といった方法を採用することも考えてはどうか。A Iの活用について、全国的な話にもなると思うので、社会貢献という意味でも実証実験のために上下水道局がフィールドを提供することを通じて、上下水道事業のPRになるのではないか。北九州市の水道は誇れる財産である。昔は断水が度々発生していたが、現在はそのようなこともない。水道使用者に対して、水道の大しさや、水道を供給するまでの苦労等を広報していく必要があるのではないか。水道使用者にとって、施設の老朽化への対応や災害リスクへの備えというのが一番気になるところである。上下水道事業に関する昨今のマスコミ報道を見ている中で、北九州市の上下水道事業に対しては、とても信頼を高く持っている。事業計画は事務局案でおおむねよいと考えるが、これまで北九州市が実施してきた下水汚泥の肥料化を計画に盛り込んではどうかなどの意見をいただきました。参考までに、委員名簿、当日の説明資料を添付しておりますので、御参照ください。

なお、審議会につきましては原則公開しております、審議資料や内容についてはホームページでお知らせをするとともに、引き続き議会に対しても適宜報告してまいります。

今後につきましては、委員のスケジュールを調整しながら進めてまいりますが、11月頃をめどに次期中期経営計画の素案を策定し、その後、パブリックコメントを実施した上で、令和7年度中に次期中期経営計画の成案を策定する予定です。

以上で報告を終わります。

○委員長（日野雄二君）ありがとうございます。

ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはつき

りと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁願います。

質問、意見はありませんか。田中委員。

○委員（田中元君） すいません、1点だけ。先ほど委員からの意見で、北九州市の水道は誇れる財産とありました。これはまさしくそのとおりだと僕も思っています。僕もこういう発信というのは、市政報告会とかでさせていただいているんです。そしたら、最近は当然なくなってきたんでしょうけど、福岡では断水があつたりとかいうことがあって、北九州市は記憶の中では皆さんないだろうというような感じで、これはもうかなり、この北九州市の水道というのは、北九州市に住む、また、仕事をする上での、かなり高い貢献度になってきているんだと思っています。市長の言葉を借りればポテンシャルが高いということになると思いますので、ぜひともこれは全市を挙げてPRをしていただきたい。市民に向けてもそうでしょうし、当然、UターンやIターンで移り住んでくる方々にも、そういう心配がないということをPRしていっていただきたいなと思います。これは要望で終わりります。

○委員長（日野雄二君） ほかにございませんか。泉委員。

○委員（泉日出夫君） それでは、私から何点か質問させていただきます。

まず、水道事業のところですけども、この令和3年度から令和7年度の計画では、浄水施設の長寿命化が5か所を計画していたところ、実際は2か所。配水池の長寿命化については、9か所を計画していたが実際は4か所といったような、このアセットマネジメント手法を活用した効率的な計画的な更新という部分については、計画をかなり下回っているような気がいたします。まず、そこに対する所感を聞きたいと思います。

それと、下水道事業の浄化センター・ポンプ場設備の改築・更新のところで、計画は120設備となっているのに対して、具体的取組は700機器と、表示が違うというか、これをどういうふうに受け止めたらいいのかというのを教えていただきたいと思います。

それと、工業用水道事業のところも計画よりも少し下回っているような感じをいたしますが、これについても同じように見解があればお聞かせいただければと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 まず、資料の件ですけど、資料が分かりづらくて申し訳なかったんですが、こちらの2ページと言ったのは、浄水場施設の長寿命化の資料の参考にあります令和3年度から令和7年度計画が5か所、これは現在の中期経営計画、令和3年度から令和7年度の整備について5か所で、次の隣の2か所というのが、令和8年度から令和12年度に実施しようとしている箇所になります。実際の進捗ではなくて今後やる箇所となりますので、ちょっと分かりづらくて申し訳なかったです。そういうことになります。

○委員長（日野雄二君） 浄水課長。

○浄水課長 浄水施設の長寿命化についてお答えいたします。

令和3年度から令和7年度の計画におきましては、5か所を計画しておりました。この件に

つきましては現在も進めておりまして、進捗状況としては順調に進んでおるところになります。そして、次期中期経営計画の2か所に関しましては、以前の5か所よりも箇所数としては少ないのですが、結構大きなものです。どうしても使いながら改修をしていかなくてはいけませんので、そういう点において少なくはなっていますけれども、こちらのほうを進めることによって、確実に長寿命化を進めていけるものと考えております。以上です。

○委員長（日野雄二君） 計画課長。

○計画課長 配水池の長寿命化と工業用水の事業について回答したいと思います。

配水池の長寿命化は、法定耐用年数の60年が経過する5年前をめどに調査して診断を行うこととしてございます。現中期計画においては8か所を予定しておりますが、今のところ7か所程度になる見込みです。次期中期計画におきまして4か所と、若干、現計画より少ないんですが、この点に関しましては、ちょうど耐用年数55年を迎える配水池が4か所でございまして、今回、計画値を上げています。

また、工業用水でございますが、従前の計画は4.3キロメートルで、次期が2キロメートルでございます。現在、御承知のとおり、工業用水につきましては響灘をはじめとした埋立地区に立地の話は多数来ております。したがって、今集中的に工業用水の管の整備をやっているところです。次年度以降は少し整備が落ち着くという形で、現在のこの2キロメートルという計画にさせていただいています。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 施設課長。

○施設課長 委員からの御質問の、浄化センター・ポンプ場の改築、更新に対しての取組が令和3年度から令和7年度が120設備、その後の取組は700機器とありましたことに対してもお答えします。

最初の120設備と機器の違いについて、例えば雨水ポンプ設備であれば、設備に対して幾つか機器がございます。設備が大枠で、それをさらに細かくしたのが機器でございまして、雨水ポンプ設備であればポンプ、あと、電動機とか細かい機器がついております。今まででは120設備ということで設備単位で管理していたのですが、今後、さらに細分化した細かい機器まで、その耐用年数と目標耐用年数が決められていますんで、より細かく管理した上で更新計画、あと予算等も限られますので、平準化等を計画的に更新していくということで考えて計画を立てております。

○委員長（日野雄二君） 泉委員。

○委員（泉日出夫君） 資料の見方は分かりましたが、そうすると、この前期の5年間の令和3年度から令和7年度の計画の進捗率とかっていうのは、この資料からは分からぬということでおいいんですかね。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 進捗率はこの資料に上げておりません。進捗については令和6年度決算とか

が出た段階で、また御報告させていただきたいと思います。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 泉委員。

○委員（泉日出夫君） そうすると、おおむねつかんでおられると思うんですけど、それに基づいて、次期中期の5年間の計画をこれで出しているというようなことなんですかね。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 基本的には今回、次の5か年の事業計画につきましては、我々、10年間の基本計画を策定しております。そこでやろうとしている事業について、次の5か年、しっかりとやろうということで考えております。ただ、今の流れ、例えばA Iを使うとか、そういういった流れを少し組み込んだところで、次の5か年の計画をしっかりとやっていこうとは考えております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 泉委員。

○委員（泉日出夫君） 確かに10年間で計画を立てたうちの前期の5年間、そして、これから後期の5年間ということですが、後期の5年間の計画を立てるに当たって、前期の、おおむねこれぐらいいっているということも含めて、ある程度検証する作業は当然されていると思います。この委員会の中でも、おおむねこれぐらいになりそうな見込みだというような資料を頂いて後期の計画の内容を検証させていただかないと、前期はこの計画だった、後期はこの計画でいきますというだけで、その進捗が分からぬ中での質問はなかなか難しいなという感じがいたしました。そのところについては、また、検証できるような資料をぜひ頂けるとありがたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 第1回の審議会のときには、ある程度、令和5年度までの進捗を出して報告させていただきました。令和6年度決算は9月議会で報告させていただきますので、その進捗も併せたところで、再度、委員会の皆様には報告させていただきたいと思っております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 泉委員。

○委員（泉日出夫君） ぜひ、またその資料でしっかりと検証したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

○委員長（日野雄二君） ほかに。戸町委員。

○委員（戸町武弘君） ちょっと勉強のために聞きたいのですが、4ページの委員からの意見ということで、A Iの活用について全国的な話にもなると思うので、社会貢献という意味でも実証実験のために上下水道局がフィールドを提供することを通じて、上下水道事業のP Rになるのではないかって書かれているんですけど、よく理解できないんですよね。これはどういったことを委員は言っているわけですか。

○委員長（日野雄二君） 配水管理課長。

○配水管理課長　これは、委員の方の意見としては、全般的にA IとかI C Tとかを活用して効率的な事業運営をということだろうと思います。我々としては、既にA Iや衛星などを活用した雨水調査、また、ドローンなどの新技術は積極的に活用しながら、効率的な事業運営に努めてまいりますということでお答えさせていただいたところです。以上です。

○委員長（日野雄二君）戸町委員。

○委員（戸町武弘君）漏水とかをA IやI C T、そして衛星で発見して、なるべくないようにしていく技術を高めていってほしいということですね。分かりました。ありがとうございます。

○委員長（日野雄二君）いいですか、戸町委員。

○委員（戸町武弘君）はい。大丈夫です。

○委員長（日野雄二君）ちゃんと説明が出来てなかったような気がしましたが。じゃ、このフィールドというのは何なのか。戸町委員の質問について、委員長が追加で言って申し訳ないですが。フィールドを提供するという、これが横文字で分からぬんですよ。

○配水管理課長　我々も、実際、事業運営等をする中で、A Iとかという技術を高めてもらうと。それを全国的にP Rしてはどうかという御意見だったと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）上下水道局長。

○上下水道局長　このフィールドというのは、例えばA Iや衛星、そういう技術を使っているところについては、例えば、北九州市のような管路であったり施設というのは実際には持っていないわけですね。そういうのを実際に使っていただいて、当然、検査をしていただくんですけど。そういう実際の施設を使ってもらって、さらに精度を上げていただくことで、私たちも実証実験で今そういうのをさせていただいているが、さらにそういう精度を上げていただくと。そうすれば、ほかの都市へ行ったときも、そういう精度が上がったやつを使ってもらうと。これは北九州市で実証実験をやって精度を上げたんですよということを少しでも言つていただければ、私たちのP Rにもつながるという意味で、委員からの話があったと思っております。以上です。

○委員長（日野雄二君）ほかにございませんか。奥村委員。

○委員（奥村直樹君）1点お伺いします。

同じく委員からの主な意見の中で2つ目に、送水管を更新するのではなく給水車で配水池へっていうのがあるんですけど、これはコスト的に考えると高くなるのかなと思うけど、具体的に検討できる内容なんでしょうか。

○委員長（日野雄二君）計画課長。

○計画課長　委員から意見でございますが、これは、一般的に簡易専用水道とか小規模な水道におきまして、要は送水管とか、そういう施設の更新費用をかけるならば、給水車を買って、給水車で配水池まで水を運搬してやれば、そっちのほうがコストは安くつくんじゃないかなということでございます。北九州市におきましては46個の配水池がございまして、どれも1,000トン

以上の大きな施設でございますので、そういう運搬給水っていうのはちょっと難しいとは考えています。ただし、どこか水道整備の御要望があった場合に、通常の送水管、配水池、配水管という整備をするのではなく、配水池と送水管で、あとはもう水を運搬するというような形で、そういう条件が整えられれば検討することもできるかなと考えております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 今、詳しい計算をしたわけじゃないと思うんですけど、具体的に言うと、どのぐらいあり得るんですかね。北九州市で、規模、何軒ぐらいだったら、このやり方でもとかって。

○委員長（日野雄二君） 計画課長。

○計画課長 今、設計上の水の使用が、1人1日大体250リットル程度というのがありますと、2人家族としますと0.5トンになります。20人から30人の集落であれば、日20トンとかになります。そうなれば、通常、配水池では12時間分確保しますので、大体20トン分が必要になります。4トン、4立米の給水車で行くと1日5回もというのは厳しいので、そういうことを考えると、10人とか、ちょっと規模の小さなところになるので、それはもう条件が合えば、当然一つの考え方としては検討してもいいのかなとは考えております。現在の施設ではございません。以上です。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） あまり現実的でないということで、分かりました。ありがとうございます。

○委員長（日野雄二君） ほかにございませんか。村上委員。

○委員（村上さとこ君） お願ひいたします。北九州市の上下水道事業に対しての信頼が厚い、私たちが当たり前のように使える上下水道事業っていうのは、非常に地味には見えるんすけれどもインフラの基礎の基礎として大切な部分であり、職員の皆様に、まず感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

質問です。令和3年度から令和7年度の中期計画と比べて、様々な社会の変化などもあったと思います。A I の台頭ですか、あとは人件費の高騰、あるいは資材費の高騰などもございました。今課題になっているのが、給水人口の減少や老朽管の更新、あとは耐震化、そして、上下水道に係る職員の方や事業者の育成といったマンパワーの強化というのも大切になってきていると認識しております。その中で、令和3年度から令和7年度の計画と、これから約5年間の次期中期計画と比べて、新しい視点で、以前とはどこが特別変わっているのかとか、新たな課題がどこにあるのか、あと、予算的にはどうなるのかという点をお聞かせください。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 今後の5年間の計画について新たな視点というのが、これまで、資材高騰、物価高騰とかで管の更新とかが十分できていない部分がありました。そういうものは、A I

で漏水の箇所を推測したりして、基本的には、もともと計画で180キロメートル、配水管の更新でいうと185キロメートルとしておりました。次の5か年もその程度を維持しようという形で、180キロメートルを整備します。ただ、今までできていなかった部分については、AIなどを活用して、実際、集中的に漏水が起きたところを探し出してやるとかというような、下水道も同じようにAIとかドローンを使って、どちらかというと更新を優先するというよりも、中に入れますのでまず調査を優先して、ドローンなどを活用して優先してやっていくということで、これまでの計画に新しい取組として入れていこうとは考えております。

ただ、これまでの課題としてですけど、物価高騰とか、そういったところがあります。現状、水道事業で言うと、基本計画では令和9年度に資金ショートを起こすような見込みになっています。これはある程度決算で余裕が出てくるとは思うんですけど、そういったところを踏まえながら、ただ、今現在物価高騰とかありますので、そういったところを少し考えながら収支については考えていきたいと思いますし、予算についても、今厳しい状況にはあります。令和8年度予算を今から編成していく中で、厳しい予算組みをしないといけないとは考えておりますが、新しい取組を入れながらなるべくコスト削減と、収入増加の取組も考えていきたいとは思っております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 村上委員。

○委員（村上さとこ君） ありがとうございます。AIを使ったというところにもう少し深くお伺いしたいんですが、このAIを使って、耐震化だとか補修をするところの優先順位をつけていくっていうことの認識でよろしいでしょうか。

○委員長（日野雄二君） 計画課長。

○計画課長 資料でお示ししているのは、更新の順番をAIで決めようというものでございます。今までアセットマネジメントで延長とかは決めてきたんですが、当然古いものからやっていくというのは常識なんで、それでやってきたというのがございます。さらに、今ビッグデータがありまして、要は交通量とか降水量とか様々なデータを入れて、漏水が発生する可能性がある箇所はどこだというのをビッグデータを使ってAIで解析するという手法で、まだ確立はされていないんですけど、実証段階でやっています。そういったのを使って、同じ更新の延長であっても、早くやるべきところを更新して漏水の事故を防ごうという取組を、このAIを使ってやっていこうというところでございます。以上です。

○委員長（日野雄二君） 村上委員。

○委員（村上さとこ君） AIもまだ道半ばという認識をしていますので、あと、先5年の中でかなり進化をすることを期待をしたいと思います。

もう一点であります。この審議会の多くの委員から主な意見というのが出ておりまして、そこに対する質問が相次ぎました。委員からの主な意見が出たら、ぜひ執行部のお考えというのも併せてお示しいただけると、効率よく、ここで審議が進むのかなと思っております。様々聞

かれて、お答えされたことは分かったんですけど、その委員からの主な意見の中の一番下、下水汚泥の肥料化を計画に盛り込んではどうかということに対する執行部のお考えもお聞かせください。

○委員長（日野雄二君） 下水道計画課長。

○下水道計画課長 下水汚泥の肥料化を計画に盛り込んではどうかというお尋ねでございました。

まず、下水汚泥の活用については、肥料化について様々な取組を行っておりまして、実際に肥料として使えるのかどうかというところで、農家の方に使っていただいたり、まだそういう裾野を広げていっている状況でして、なかなか数値目標として決められない状況でございました。しかし委員からは、大事なことなので推進してはどうかというような御意見をいただきましたので、その方向で今後協議を進めたいと思っております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 村上委員。

○委員（村上さとこ君） 具体的な数値は盛り込めないけれども、そういった方向で進めていきたいということで認識をいたしました。汚泥については、今後の肥料化のほかに、例えばコロナウイルスのときも、汚泥の中からコロナのウイルスの発見とか、いろいろな情報が汚泥の中に詰まっていますので、そこは各部署と連携をして取り組んでいただきたいと思います。これは私の要望として申し上げます。以上です。

○委員長（日野雄二君） ほかにありませんか。木畠委員。

○委員（木畠広宣君） 私から、1点だけ教えてください。

別紙の中の上下水道に関するお客様アンケートの調査報告書の中で、上下水道について知りたい情報というのがあるんですけども、その中で、1、2、3、4、5位と、ずっとパーセントが示されているんですけども、知りたい情報として、水道水の水質が60.4%と最も高くなっていますので、次いで、上下水道料金が46.3%、災害対策が41.2%と続いているんですけども、この辺についての情報発信ってどのようにされているんでしょうか。その1点だけ教えていただければと思います。

○委員長（日野雄二君） 総務課長。

○総務課長 今回のアンケートの結果を見ましても、安全・安心というか、飲んでいらっしゃる水の水質ですか、そういうことに関しての関心が高いということは重々承知をさせていただいております。我々も、年に1回ではございますが、くらしの中の上下水道という広報紙を作成しまして、この中で、水を作るところから皆さんの家庭に届けるところ、その後の下水処理まで含めて、このような流れでやっていますということを丁寧に御説明をさせていただいているつもりでございます。例えばその水質のところでお知りになりたいことっていうのが、安心して飲めるものなのかなことと、あと、時々ありますが、水が白く濁ったりとかそういうしたものについて、飲んでも大丈夫ですかというお問合せをいただくこともあります。こ

ういったものは、例えば空気が入っていますよとかということを丁寧にお知らせするということも大事だと思っておりますので、今のところは市のホームページなどでのお知らせにとどまっておりますが、そういう形で機会を見つけてPRに努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）木畠委員。

○委員（木畠広宣君）ありがとうございます。4番目に上下水道事業の経営状況となっているんですけど、現状はどのような感じになっていますでしょうか。

○委員長（日野雄二君）経営企画課長。

○経営企画課長 こちらについても、先ほどのくらしの中の上下水道の中には、これまであまり経営状況はお知らせしてなかっただんですけど、やはり厳しい状況がありますということを皆さんにお伝えしたいということで、そういうことを掲載しております。令和7年度予算で言うと、水道事業、下水道事業、こちらの水道料金、水道の使用によって料金収入、使用料収入が減少しておりますので、収益的収支で言うと、水道事業で14億円の赤字、下水道事業で10億円の赤字、こちらは予算ですので、ある程度決算で戻ってくるとは思いますけど、厳しい状況にはありますということをお伝えしております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）木畠委員。

○委員（木畠広宣君）ありがとうございました。これからもしっかりと情報発信に努めていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

○委員長（日野雄二君）ほかにありませんか。荒川委員。

○委員（荒川徹君）それでは、1つは、市民アンケートの結果を見させていただいて、北九州市のこれまでの水源開発とか、今の運営について非常に信頼度が高いということが分かりました。能登半島地震の被災地に支援に行かれた報告も聞いたんですけども、いずれにしても上下水道は最も重要なライフラインの一つでありますんで、その安定的で安心な運営というのは極めて重要な課題だと思います。

一方で、日常生活に欠かせないものであるだけに、アンケートの中にもありますけども、安価な料金での提供というのが市民の切実な要望もあると思います。アンケート結果に示された、この料金問題についての現時点の、あわせて来年度予算に向けて政府要望されていますね。国土交通省に豪雨対策の推進とか、それから、公共下水道事業の推進とかの予算の確保、あるいは補助率の引上げ等々、要望されていますが、これからだと思いますけども、その見通しについてお尋ねしたい。

それから、いずれにしても経営状況が厳しいということは理解していますが、いかにして効率よく、そして、財源もしっかりと確保していくのか。そのあたりの基本的な考え方についてお伺いしたいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君）経営企画課長。

○経営企画課長 3点ですね。料金について、国要望への見通しについて、あと、今後の効率化について、質問いただきました。

北九州市の特に水道料金、下水道料金については、今県内で一番安いということで、そこは皆さんに誇れるところだとは思っております。ただ、昨今、コストが上がっておりまます。水を作るのに対しても薬品が要るとか電気代がかかるとかという形で、現状、このままで同じ料金でいくっていうのは難しいと思っております。ただ一方で、電気代も上がっているし、市民生活がかなり厳しいということは我々も切実に考えておりますので、そういったところ、単に料金だけではなくて、そういうコストをいかに削減できるかっていうのを突き詰めながら、考えていくのかなとは考えております。今回、2回目の審議会では、そういう安心してもらえるような事業をどれぐらいにするかというのを検討しました。次に、その事業に対してどれぐらいの財源が要るかというのを3回目の審議会で考えていきたいと思っておりますので、そういうところを次でお示しできるのかなとは考えております。

国に対しては、下水道もそうなんんですけど、水道事業についても、財政の支援措置をこれまでずっとやっております。国に対して直接要望するとか、あと、大都市会議、水道事業の管理者、他都市も同様に厳しい状況にありますので、そういう財政措置、管の耐震化、更新をするなら、当然その辺のところの財政措置をしていただきたいということで、毎年国に要望しております。ある程度、耐震化の予算とか国の支援補助とかはついてきてはおりますが、さらに、もっと国に支援いただきたいということで、これからも要望していきたいと思っております。先ほどの内容と同じなんですけど、単に収入を市民に求めるだけじゃなくて、効率よく進めることによって費用をいかに抑えていくかということを、先ほどからも言っていますようにA Iなどを使って、単に更新をこれまでどおりやるのではなくて、集中的に、効率よくやっていくというのが大切なことは思っております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 荒川委員。

○委員（荒川徹君） 分かりました。先ほど言われたように物価全体が上がっている中で、市民の負担に対する危機感がありますから、そういう意味では、安価な、そして安心のサービス提供という立場で、しっかり精査していくながら取り組んでいただきたいということを要望したいと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君） ほかにありますか。

ほかになければ、以上で所管事務の調査を終わります。

次に、上下水道局から第三セクターの経営情報について、下水道分野における芦屋町との広域連携についての以上2件について、一括して報告を受けます。経営企画課長。

○経営企画課長 株式会社北九州ウォーターサービスの経営情報について報告させていただきます。

資料の2ページを御覧ください。

1、会社の概要ですが、北九州ウォーターサービスの主な事業は、市内の上下水道事業、水道事業の広域化事業、上下水道の海外水ビジネス事業となっております。資本金は1億円、本市の出資比率は54%で、出資者の内訳については表に記載のとおりとなっております。従業員数は250人となっております。中ほどの2、令和6年度事業報告です。資料の2ページから3ページにかけて記載しておりますが、1、市からの受託事業として、浄水場や浄化センターなどの水道・下水道施設等の維持管理等業務を着実に履行するとともに、広域連携に係る受託業務として、市が受託した宗像地区事務組合の水道事業の業務の一部を受託し、順調に履行いたしました。また、海外事業においては、カンボジア国全国水道事業計画策定プロジェクト第1期などに取り組みました。

3ページの中ほどですが、2、自主事業として、エチオピア国アディスアベバ上下水道公社無収水削減管理強化プロジェクトや、カンボジア国ニロート上水道拡張事業準備調査運営維持管理計画策定業務など、海外水ビジネス事業に取り組みました。また、広域事業として、苅田町や香春町の業務を受託いたしました。

次に、3ページの下段に記載しております、3、令和6年度財務状況につきましては、4ページの4、決算要旨と併せて報告させていただきます。

4ページをお願いいたします。

4ページ上段の損益計算書を御覧ください。

令和6年度の財務状況ですが、売上高は21億9,164万7,000円となっており、対して、売上原価19億1,464万1,000円、販売費及び一般管理費1億8,972万8,000円となっております。営業外収益、費用を加味した経常利益は1億1,162万3,000円、税引き後の当期純利益は7,677万8,000円となっております。

次に、4ページ下段の貸借対照表を御覧ください。

表の右側、純資産の部の利益剰余金ですが、前期利益剰余金に当期純利益7,677万8,000円を加えた6億3,391万9,000円を確保しており、引き続き安定的な経営を維持しております。以上で株式会社北九州ウォーターサービスの経営情報について、報告を終わります。

○委員長（日野雄二君） 下水道計画課長。

○下水道計画課長 それでは、私から、下水道分野における芦屋町との広域連携について御説明いたします。

タブレットに収納されている資料を御覧ください。

北九州市と芦屋町は平成19年度から水道分野で事業統合を行っておりまして、交流を深めております。一方、芦屋町の下水道事業は、技術職員の不足や使用料収入の減少などの課題が顕在化しつつあります。そのため芦屋町では、北九州市との連携を含めた将来的な在り方を検討しており、本市も連携中枢都市として、これまで芦屋町と意見交換を行ってきたところでございます。このたび下水道事業に係る連携協議を本格的に開始することになりましたので、報告

させていただきます。

中身についてですけれど、まず、1、国が考える広域化、共同化の必要性についてでございます。全国的に下水道事業は、施設の老朽化、技術職員の減少や使用料収入減少といった課題を有しております、従来どおりの事業経営では、持続的な事業の執行が困難になりつつあります。そこで、良好な事業運営を維持するためには、執行体制の確保や経営改善などの取組が必要です。具体的な取組として、広域化、共同化は、スケールメリットを生かした効率的な管理を行うことが期待できる有効な手法の一つとして示されております。

続いて、2、芦屋町の上下水道の連携についてでございます。北九州市と芦屋町は、平成19年度に水道分野で事業統合を行っております。その後、平成27年に本市は北九州都市圏域の連携中枢都市としての宣言を行い、これを受けまして、平成28年に芦屋町との連携協約を締結しております。この連携協約には、上下水道分野の広域連携に向けた検討を行うことが示されております。そこで、芦屋町は平成29年度から下水道事業について、本市との連携や町単独との継続経営など将来的な在り方を検討し、本市と連携することが維持管理や経営面で有利になると判断しておるところでございます。

続いて、3、今後の取組についてでございます。今後は、國の方針や芦屋町との連携協定に基づき、双方の広域連携のメリットやデメリットを整理の上、両自治体にとって持続可能となる仕組みづくりについて検討を進めてまいります。検討結果については、改めて御報告をさせていただきます。以上で説明を終わります。

○委員長（日野雄二君） ただいまの報告に対し、質問、意見を受けます。

質問、意見はありませんか。たかの委員。

○委員（たかの久仁子君） 芦屋町との広域連携について、芦屋町との今後の取組についてでメリットやデメリットを整理の上ということですが、一部でもいいので、このメリット、デメリットを教えていただけたらと思います。お願いします。

○委員長（日野雄二君） 下水道計画課長。

○下水道計画課長 メリット、デメリット、今後詳細に詰めていく予定ではございますけれども、一般論として、こちらに書き込んでおりますけれども、芦屋町は技術職員が非常に少のうございます。実は技術職員の方が3名で下水道事業を回しているところで、今後も技術職員を下水道事業に確保するのは困難な状況と聞いております。そのようなところを、大きな本市がカバーするというところでは、芦屋町のメリットになるというところが1つ。あとは、広域連携ではソフトの部分、今の事務の技術職員の確保もありますけれども、施設の統合だとか、そういうところもメリットになるということで、本市も人口減少しておりますので、処理場の処理能力、大分空いてきているところもございます。将来的に芦屋町の汚水を受け入れるというところであれば、うちも処理の利用収入が得られるというように考えております。あくまで一般論ですので、このあたり、どのようになるのかという詳細を、今後検討していくところで

ございます。以上です。

○委員長（日野雄二君） メリットは分かりましたけど、デメリットは。下水道計画課長。

○下水道計画課長 デメリットでございます。まず事務の面でいきますと、芦屋町は今少ない人数でやっておられますけれども、本市も同じように少ない人数で、ぎりぎりの人数でやっておるところでして、まずそれを、いきなり広域化で引き受けるというのはなかなか、たちまちの話としては、体制の整備だとかそういう課題も出てくるかと考えております。そういうところで十分に対応できるかどうかというところが、直接デメリットにはつながらないですけども、今から精査していきたいというところでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） たかの委員。

○委員（たかの久仁子君） 事務の方が少ないということですか。

○委員長（日野雄二君） 下水道計画課長。

○下水道計画課長 具体的には技術職の方ですね。もともと芦屋町は人口1万2,000人程度で、本市と比べましても40分の1程度で規模が小さいんですけども、本市もそうですけれども、技術職員の確保がなかなか難しい状況にあります。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） たかの委員。

○委員（たかの久仁子君） ありがとうございました。今後、検討していただいて、お互いにとっていい方向にいくようによろしくお願ひいたします。

○委員長（日野雄二君） 要望として。

ほかにありませんか。泉委員。

○委員（泉日出夫君） 私から、北九州ウォーターサービスの経営状況についてですけども、売上げの内訳を少し知りたいと思います。受託事業であったりとか海外事業であったりとかっていう、これ21億9,000万円の内訳が分かればと思うのと、あと、営業外収益で2,400万円ありますが、これも分かれば結構ですけども、営業外収益っていうのはどういうものがあるのかということを教えていただければと思います。以上です。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 北九州ウォーターサービスの売上げの内訳ですが、まず、受託事業は売上高20億9,700万円で、自主事業としまして9,400万円ということで、市からの受託事業がかなりの部分を占めております。営業外収益ですが、こちらについては、北九州市海外水ビジネス推進協議会の事務局をしております。こちらの負担金を市から負担しておりますので、こちらの金額となっております。以上でございます。

○委員（泉日出夫君） 分かりました。ありがとうございました。

○委員長（日野雄二君） ほかにありませんか。村上委員。

○委員（村上さとこ君） お願ひいたします。まず、下水道分野における芦屋町との広域連携についてお伺いをいたします。これ連携した場合、下水道料金が芦屋町のほうで上がるんでしょ

うか、下がるんでしょうか。

○委員長（日野雄二君）下水道計画課長。

○下水道計画課長 下水道料金については、上がるか下がるかというのが、基本的には芦屋町が決めることになりますので、そこは芦屋町の判断になるところでございます。うちとしましては、仮に事務を引き受けことになった場合、それなりに事務費をいただいて引き受ける形になります。ただし、芦屋町のメリットとしては、その分、人件費なりコストが要らなくなるというところで、そのあたりの判断で料金は設定されてくると考えております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。国土交通省でも広域化を進める中で、そういう各地の、連携をしても各地の料金がばらつくっていう場合があることが課題になっていると聞きましたので、お伺いをいたしました。北九州市は事務費をもらって、その分を広域化に、社会貢献とともに市の収入にしていくということで、分かりました。

もう一点、第三セクターについてお伺いします。

これは毎回お伺いしているんですが、北九州ウォーターサービスの社員数の中で、本市出向者や本市退職者の人数が分かれば教えてください。

○委員長（日野雄二君）経営企画課長。

○経営企画課長 北九州ウォーターサービスに本市から派遣している人数は2名になります。市のO Bにつきましては、65歳未満の方が26名、これは令和7年度時点なんですけど、65歳を超えた方が45名、合わせて71名の方が市のO Bとなっております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）ありがとうございます。そのO Bなんですけれども、これは、例えば北九州市役所を退任されて、直接北九州ウォーターサービスに行った場合の人数ということでしょうか。以前、別の会社を、例えば1回民間に行ってからその後北九州ウォーターサービスに行くと、それはカウントされないような話も聞いたんですけど、カウントの仕方はどうなっているのか、正確に教えてください。

○委員長（日野雄二君）経営企画課長。

○経営企画課長 すいません、民間を経由した方が行ったのかというのまでは把握していないのですが、基本的には、市に在籍していた方で今北九州ウォーターサービスにいる方が71名という形になっております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）村上委員。

○委員（村上さとこ君）そうしますと、一度でも市の職員として御経験のある方が北九州ウォーターサービスに行くと、それはO Bとしてカウントされるということが正確な情報ですね。

○委員長（日野雄二君）経営企画課長。

○経営企画課長 すいません、一旦民間を挟んで北九州ウォーターサービスに行っている方が市のO Bとしてカウントされているかどうかまでは確認していません。基本的には、市のO Bとして何人かということで聞いたときには、71人と聞いておりますので、その正確なところまでは把握しておりません。申し訳ございません。

○委員長（日野雄二君） 村上委員。

○委員（村上さとこ君） ありがとうございます。それはどこに聞いたら分かるんでしょうか。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 基本的には会社が把握しておりますので、そこは会社に聞けば分かるんですけど、今我々のほうで、その数字までは押さえています。実際、O Bとして何人おるかということで聞いているのが今の人数だったということでございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 村上委員。

○委員（村上さとこ君） ありがとうございます。第三セクターの考え方として、私も以前別の部署から、1回民間を経由すると、O Bではないカウントになるという話もちらっと聞いたので。それがどこまで正確な情報か分からぬいんですけども。すみません、本当に時間があるときでよくて、これは急がないので、カウントの仕方について、機会があったら教えてください。よろしくお願いします。以上です。

○委員長（日野雄二君） ほかにありませんか。奥村委員。

○委員（奥村直樹君） 芦屋町との広域連携なんんですけど、今回、下水道分野におけるってことは、上水道はもう既に事業統合していると。それであれば、請求みたいなものは今どうなっているんですか。さっき下水道は向こうが決めます、芦屋町が決めます、もしかしたらこちらですることになるかもしれない。今の時点で、上水道はお金のやり取りっていうのはどうなっているんですか。

○委員長（日野雄二君） 経営企画課長。

○経営企画課長 水道については、北九州市が直接請求しています。今水道料金と下水道料金、両方取って、その下水道料金、収入については芦屋町にお返ししとするという形で、徴収はばらばらじゃなくて一緒にやっています。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） では、支払いのシステムとかの、例えば電子決済というか、いろんな支払い方法があると思うんですが、北九州市民と同じような方法は全て取れるんですかね。

○委員長（日野雄二君） 営業課長。

○営業課長 水道につきましては、北九州市と同じシステムを使って請求しております。下水道につきましては、芦屋町の仕組みにカスタマイズしたシステムで請求して、その分の料金を北九州市が請求した後に芦屋町に送金しているという形を取らせていただいております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君） 奥村委員。

○委員（奥村直樹君） ということは、芦屋町の皆さんからすると、ユーザーからすると、支払い1回で北九州市と同じようないろんな支払いの方法があって、選んで1回で終わるということですね。それをして後は、入ったものを向こうにお返ししていると。ああいういろんな支払い方法で、手数料的なものとかって、何かかかるんですか、北九州市から。

○委員長（日野雄二君） 営業課長。

○営業課長 芦屋町につきましては水道事業を統合しておりますので、支払い方法、料金徴収方法等は変わりません。一緒に徴収していることとしましては、上下併用で皆さん使われていますので、そこで一緒に徴収しているというところになりますので、変わらないと。変わるとしまして、水道は地下水を使っていらっしゃるところが下水に流す場合に徴収方法が変わってきますので、そこは今、現在も芦屋町が直接やっているというところになっております。以上でございます。

○委員（奥村直樹君） 手数料の違いは。

○営業課長 失礼いたしました。手数料は変わりません。金融機関等に払う支払い額が、市、町によって変わるわけではないので、変わらないということになります。以上でございます。

○委員（奥村直樹君） 分かりました。大丈夫です。

○委員長（日野雄二君） ほかにありませんか。荒川委員。

○委員（荒川徹君） それでは、第三セクターの経営情報に関して、下水道事業についても委託を受けてやっているわけですが、念のためにお尋ねします。

埼玉県の行田市で大変痛ましい事故がありました。北九州市においては、北九州ウォーター・サービスがやっているかどうか分かりませんけど、下水道管の点検、調査を行う際は、安全が保たれてやられているかどうかだけ確認しておきたいと思います。

それから、芦屋町との広域連携に関する、下水道の整備率は芦屋町は何%ぐらいなのか教えてください。

○委員長（日野雄二君） 下水道保全課長。

○下水道保全課長 本市の下水道管の点検、調査に伴う安全対策について、お答えさせていただきます。

委員御指摘のとおり、下水道管の内部は酸素濃度が低下し、有毒な硫化水素などが発生する場合があるため、管内の点検や清掃など、維持管理には危険が伴います。このため、維持管理作業の前には、硫化水素の発生や、それから酸素の状態、こうしたことを確認するようにしております。また、豪雨時、雨天時には急激に水位が上昇するということもございますので、そういう災害を未然に防ぐなど十分に安全対策を図るよう、日頃から周知徹底を図ってございます。行田市が今行っていて、事故があった調査につきましては、これは国が要請した全国特別重点調査でございます。本市におきましても、現在、全国特別重点調査、実施中でございます。

す。受注業者の皆さんにつきましては、事前説明会の中で安全対策をまず第一に、しっかりと対策を講じていただいて着手するようお願いをしているところです。また、国からも、今回の事故を受けて、安全対策の徹底ということで文書が発出されております。改めてそれを受け、東西工事事務所並びに各区役所のまちづくり整備課に対して、安全対策にしっかりと取組むよう要請しておるところです。以上です。

○委員長（日野雄二君）下水道計画課長。

○下水道計画課長 芦屋町の下水道整備率についてお答えいたします。

芦屋町の下水道整備率については99.9%となっておりまして、本市と同様で、ほぼ整備が完了している状況でございます。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）下水道保全課長。

○下水道保全課長 すいません、1つお答えが漏れておりましたので、追加させていただきます。

KWSが実施しているかというお尋ねがございました。KWSにつきましては、直接受注はしてございません。現在受注しております業者につきましては、日頃から下水道管の管理作業をやっていただいている業者を中心に業務を行っていただいているところです。以上です。

○委員長（日野雄二君）荒川委員。

○委員（荒川徹君）分かりました。事故のないように行っていただきたいと思います。芦屋町については、同じような普及率ということは初めて知りました。災害時の責任分担等についてはどんな考え方になるんでしょうか。これだけお尋ねしておきたいと思います。

○委員長（日野雄二君）下水道計画課長。

○下水道計画課長 災害時のリスク分担、責任分担についてでございます。仮に私どもが芦屋町の下水道事業に携わるというか、運営をする場合ですけれども、その場合は芦屋町に技術職員がいないという形になりますので、北九州市が広域的に手助けをするというところになります。ただ、下水道事業自体は、事業統合という形で完全に北九州市の実施になるわけではなくて、あくまで芦屋町の管理者としての立場が残る形になりますので、芦屋町の監督を受けて、私どもが技術的にサポートするというような形になると考えております。以上でございます。

○委員長（日野雄二君）ほかにございませんか。

ほかになれば、以上で報告を終わります。

本日は以上で閉会します。

環境水道委員会 委員長 日野雄二 ㊞